

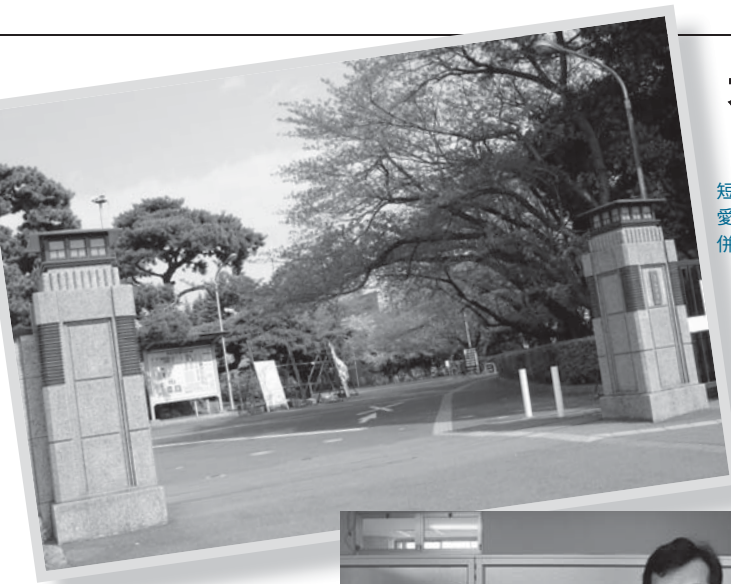
# 最新事情

幅広く学べるカリキュラムで  
学生の就職力と就業力を養う

## 愛知大学短期大学部

(愛知県豊橋市)

愛知大学短期大学部では学生が学びたいことを選択できるよう、多岐にわたる科目を設置している。中でも特徴的なのが就業力育成に関する科目だ。就職活動はもちろん就職後を見据え、実践的なマナーが身に付くよう、ビジネスマナーやサービスマナー接遇検定の内容を導入している。同校の取り組みをレポートする。



短期大学部の校舎は、愛知大学豊橋キャンパスに併設されている



龍(りょう)昌治教授(右)と「ビジネスマナー入門」などの科目を担当する瀧崎優佳氏

### 学生に自身のキャリアを 真剣に考えさせたい

愛知大学短期大学部は愛知大学に併設する女子短大だ。緑に囲まれた校内を歩くと男子学生と擦れ違うことも多く、ここが女子短大であることを忘れてしまいがちになる。

同短大の学科は平成17年に言語文化学科と現代生活学科を統合して設置されたライフデザイン総合学科のみ。ここで約200名の学生が日々学びを深めている。

「本短大は学生が何か一つのことを専門的に学ぶというよりは外国語、ビジネス、文化、文学等を幅広く学ぶことにより、自分の未来を考え、デザインすることが狙いです。そのため

ベーシックフィールド(基礎科目)やセレクトフィールド(専門科目)はさまざまな科目から成り立っており、実に多彩です。学生はそれらの科目の中から学びたいことを自由に選び、望む未来に向けて自分なりのカリキュラムを組み立てます」と教学主任の龍昌治教授は話す。

ベーシックフィールドには哲学、文学、芸術、法学、語学(英語、中国語、フランス語、ドイツ語)など、教養を重視した科目がずらりと並ぶ。ここまで充実した科目を展開できる理由を龍教授はこう話す。「併設の愛知大学には文学部や法学部など七つの学部があります。それらの先生方が、学部で教えている内容を短大の科目でも指導してくれるのです」。

愛知大学の存在は同短大の大きな強みとなっているようだ。もちろん、そうした特長を生かした科目だけではなく、短大独自の科目もある。セットで履修するのが「ライフプランニング」(1年次春)と「キャリアプランニング」(1年次秋)だ。ライフプランニングのキーワードは生涯学習。入学したての学生たちに、学校だけではなく生涯にわたり学び続ける姿勢の大切さを伝え、結婚や出産・子育てといった女性ならではの転換期を含めて人生を考えるよう指導する。

キャリアプランニングでは、就職を意識した内容の授業が展開される。「この科目のキーワードは『キャリア』です。学生たちはキャリアと聞いて、まず就職を思い浮かべると思いま



ビジネスマナー演習を履修する2年生の小山麗さん。「就職活動に役立てたい」と秘書検定2級と準1級を取得した



ビジネスマナー演習は「よろしく願います」というあいさつとお辞儀で始まる(左下)。電話応対のやりとりは模擬電話を使って練習(右)。「電話応対では“笑声”(えごえ)が大切です」と指導する瀧崎氏(左上)



## オフィス分野の科目で 就職力と就業力の 育成を目指す

ですが、もつと先の10年後や20年後のことも考えさせる必要があります。女性がキャリアを積むために何が必要なのか、社会に求められるスキルとは何か。それを学生たちに伝えるのが狙いです(龍教授)。

授業は外部講師による講演と、それに続く短大教員による講義で進められる。昨年度はこれを7回繰り返し、計7名の社会人講師が登場した。

「講師にはキャリアアンカーの考え方をベースに90分の講演を行っていただきます。キャリアアンカーとは、自分の個性や大事にしているものを見つけ、それを生かせるキャリアとは何かを考えさせるものです。講演の次の講義では、講演の内容について担当教員が補足し、学生は感想をまとめます。講演、講義と続けることで一つの授業としてまとめるのです。この授業をきっかけに、学生は自分のキャリアを真剣に考えるようになってほしい」と龍教授は願いを込める。

セレクトフィールドの科目も英語や英米文化、日本文化をテーマにしたものから、情報系そして食と健康を題材にしたものまで、広範囲に及ぶ。中には、就職や就業力を意識したオフィス分野の科目もある。とりわけ「ビジネス

マナー入門(1年次秋)」「ビジネスマナー演習(2年次春)」は毎年、多くの学生が履修する人気科目だ。

「『ビジネスマナー入門』は学生が就職活動を始めるに当たり、言葉遣いや立ち居振る舞いなど社会人としての基本的なマナーを身に付けることを目標としています。『ビジネスマナー演習』は、社会で即戦力となる実践的なビジネスマナーを身に付けることが狙いです。具体的な事例を通して、来客応対や電話応対を臨機応変にできるスキルの習得を目指します」と話すのは指導を担当する就職相談室キャリアアカウンセラーの瀧崎優佳氏だ。

ビジネスマナーは社会人にとって必須のスキルである。学生時代に習得しておけば、大きな強みとなるに違いない。そうしたスキルを学生たちはどのように学んでいるのだろうか。ビジネスマナー演習の授業を見学した。

授業で使うのは電話応対が練習できる「電話模擬応対セット」。本物の電話のようなやりとりが練習できる機械だ。2機の子機を使って、電話応対のやりとりを実践。その内容を録音し再生する。「○○さん、少し早口でしたね。もつとゆっくり話しましょう」と瀧崎氏はアドバイス。学生たちも自らの録音を聞いて「滑舌が悪いし、元気がない。次はもつと聞きやすいように話します」と改善点を積極的に挙げていく。受講生は約40名前後。皆、真剣に取り組む姿が印象的だった。



最新事情 30.....愛知大学短期大学部

「どこに就職しても『電話応対は問題なくできます!』と胸を張れるレベルまで持つていくことが目標です。電話応対に限らず、ここでみっちりビジネスマナーを身に付けることができれば、就職活動に限らず入社後も力を発揮できると思います」と瀧崎氏は笑顔を見せる。

学生に話を聞いてみた。小山麗さん(うらら)はつい先日、内々定をもらったばかりだ。「就職活動で必ず役に立つと思いい、この科目を履修しました。狙い通り、社会で必要とされる基本的なマナーを学ぶことができました。また、気を引き締め直す効果もあり、就職活動も集中力を切らさずに臨んでいます。おかげで、つい先日希望する会社の1社から内々定を頂きました。『2年生の夏までに決定!』を目標にしていたので、本当にうれしいです」と笑顔で話す小山さん。その表情からは就職活動への強い熱意だけではなく、余裕すら感じた。

さまざまな力を身に付けて活躍してほしい

3年前にスタートした「サービス接遇」もオフィス分野の科目の一つだ。サービス接遇検定2級と準1級の内容に沿って授業は展開される。狙いについて瀧崎氏はこう話す。

「サービス接遇検定で重視される愛想・愛嬌を学んで、笑顔で人と接することの楽しさを知ってもらいたいと思いました。笑顔は就職活動でも大きな武器になりますから、心掛けてほしいです」。

です」。

授業では準1級の面接試験を想定した受け答えの練習が行われていた。お客さまに声を掛けるとき、お客さまに旬の野菜を勧めるときなどのシチュエーション別にロールプレイングを実施。「おすすりレシビを会話に取り入れるなど、各自工夫してみてください」とのアドバイスに従い学生たちは実践する。最初は戸惑いを見せるものの、笑顔と自分なりの言葉で接客する様子からは楽しさが伝わってきた。

「授業では、楽しいをモットーにしています。楽しくないと笑顔になれませんから。ただし、もちろん楽しいだけでなく、気を引き締める部分はきちんと気を引き締める。メリハリをつけることが大切です」(瀧崎氏)。

就職力の育成を目指す取り組みは、こうした科目だけに限らない。それ以外にもインターンシップや就業力育成セミナー、企業見学会などさまざまな学生をサポートしている。瀧崎氏が運営する短大生専用の就職相談室「きやりルーム」もその一つだ。学生の相談に応じるだけではなく、各種イベントを開催している。

昨年度は、東海地区で活躍するフリーアナウンサーが講師を務める「話す力講座」や、サービス接遇検定の面接練習、グループディスカッションなど実践的なものを含めて、6種類のイベントが開催された。

「企画するときに考えるのは二つ。一つは、学生が参加したいと思うもの。もう一つは、学生

が必要とする力を身に付けることができるもの。この二つは欠かせません。学生にアンケートを取り興味のある企画を教えてください。『このイベントでは○○の力が付くよ』と参加を促すこともあります」と瀧崎氏は話し、「こうしたイベントへの参加を通じて、多くのことを身に付けて将来に役立ててほしい」と願う。龍教授の願いも同じだ。

「資格講座や各種イベントに積極的に参加して、行動力や考える力も養ってほしいと思っています。ここで学んだことをさまざまな場所で発揮してもらいたいと願っています」。



サービス接遇検定準1級の面接試験で出題される問題に取り組む学生たち

